

## 令和7年度 「全国学力・学習状況調査」結果の概要

### 1 調査の概要

#### (1)調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、その取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各学校が、各児童生徒の学力・学習状況を把握し、教育指導や学習の改善等に役立てる。

(2)実施日 令和7年4月17日(木)

(3)対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

#### (4)本市の実施状況

- ① 実施校 小学校 7校 中学校 4校
- ② 参加児童生徒数 児童 337人 生徒 297人

(5)実施教科 国語、算数・数学、理科

#### (6)調査内容

##### ①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査 小学校；国語、算数、理科 中学校；国語、数学、理科

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

##### イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

主な調査項目は、以下のとおり

- 1 基本的な生活習慣等
- 2 ICTを活用した学習状況、情報リテラシー
- 3 健康面、自己肯定感、相手意識等
- 4 自己有用感、先生（大人）との関係性、友人関係等
- 5 家庭での生活、ICT機器の利用
- 6 授業の場面、課題解決等
- 7 総合的な学習の時間、学級活動、特別な教科 道徳
- 8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）
- 9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数 数学）
- 10 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科 英語）
- 11 今回の学調に関わること（国語、算数・数学、理科）

##### ②学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備

の状況等に関する質問紙調査を実施。

## 2 結果の概要

### (1)教科に関する調査結果の概要

#### 【小学校】

本市の平均正答率は、調査対象学年の小学6年生の国語・算数・理科において全国平均より低い。県平均との比較では、国語と理科が1%低く、算数では3%低かった。教科ごと県平均を下回った区分域に着目すると、国語は「情報の扱い方に関する事項」算数は「測定」「データ活用」理科は「エネルギーを柱とする領域」であった。

#### 【中学校】

本市の平均正答率は、調査対象学年の中学3年生の国語・数学・理科において全国平均では、国語と数学において1-2%低く、理科は0.1%高かった。県平均との比較では、国語が2%低かったが、数学と理科はほぼ同様であった。

県平均を下回った国語の区分域に着目すると「資料から言葉や文をとりあげ、理由を書き出す」「文章表記の仕方を説明する」であった。

### (2)生活習慣や学習指導要領に関する質問紙調査結果(児童生徒に対する調査)の概要

#### 質問紙調査項目

- ・小学6年生…71項目及び国・算・理それぞれ2項目計6項目 全77項目
- ・中学3年生…70項目及び国・数・理それぞれ2項目計4項目 全74項目

以下、主な調査結果は次の通り。

※数値は質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計(下段は全国平均)

※ \線は、前年度質問項目なし又は前回と集計が違う項目

#### ① 基本的な生活習慣

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
1	朝食を毎日食べていますか	94.5 (93.7)	93.0 (93.7)	92.0 (91.2)	92.8 (91.2)
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	80.4 (81.9)	83.9 (82.9)	82.3 (81.0)	89.2 (80.7)
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.1 (91.0)	91.7 (91.6)	93.3 (92.6)	95.2 (92.5)

#### ○「毎日朝食を食べていますか」「同じくらいの時刻に就寝起床していますか」

- ・朝食を食べているかという問いに対して、昨年比が小6年生で1.5%上回り、中3年生で0.8%下回った。就寝時刻がある程度決まっているかという問いに対しては、昨年比が小6年生で3.5%、中3年生で6.9%いずれも下回った。また起床時刻を見ると、小6年生で0.4%上回り、中3年生で1.9%下回った。中学生における就寝起床時刻が朝食にも響き、生活リズムの乱れを示唆しているとするならば、その要因を探るとともに、健康の保持・増進の3原則『睡眠・食事・適度な運動』について具体的な例を示した指導支援が必要となる。

#### ② ICTの利用等

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
4	学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当た	40.5	51.2	30.5	40.4

	りどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）※30分以上をカウント	(42.5)	(44.2)	(31.6)	(36.4)
5	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ができると思いますか	80.6 (81.8)		83.6 (83.6)	
6	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ができると思いますか	88.8 (89.8)		94 (91.5)	
7	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ができると思いますか	59.5 (69.3)		68.3 (63.3)	

- 「授業以外の時間(家庭学習を含む)にICTを活用した学習に利用しているか」という問いに対し、小・中学生ともに昨年比が10%下回っている。全国比も下回る傾向を示しているが、5%以内に留まっていることから、要因を探る必要がある。
- ICT機器を活用して「文章の作成、情報収集できるか」という問いに対し、概ね全国平均と同じ数値となっている。小学校における情報整理が全国平均よりも10%下回っているところについては、ICTを活用した情報整理の学習材が少ないことも要因としてあげられる。今後、ICT活用のステップアップのために小学生における情報整理がより必要となってくる。

### ③ 自己肯定感、相手意識等

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
8	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	66.2 (70.6)		77.6 (73.2)	
9	自分には、よいところがあると思いますか	88.2 (86.9)	86.9 (84.1)	87.0 (86.2)	87.8 (83.3)
10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.7 (92.2)	94.8 (89.9)	93.6 (92.2)	91.6 (90.4)
11	将来の夢や目標を持っていますか	81.9 (83.1)	83.2 (82.4)	67.9 (67.5)	67.0 (66.3)
12	人が困っているときは、進んで助けていますか	94.8 (93.7)	93.6 (91.6)	94.7 (90.9)	90.2 (87.1)
13	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.7 (97.2)	97.9 (96.9)	97.6 (95.9)	93.3 (95.5)

- 困った時に学校職員に相談できるかという質問に対し、市内中学生の77%以上「相談できる」と答えている。こと、小学生については全国平均より4%下回ってはいるが、帰宅後、保護者に相談をしている実態がある。今後も「一人で悩まない」「悩んでいる児童生徒を大人が察知できる環境づくり」に努めていくことが重要となる。
- 「自分にはよいところがあると思うか」という問いに全校平均は昨年比で上回る傾向にある中、市内小中学生は、昨年比とほぼ同等となった。また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対し、2年連続で全国比を上回っている。教職員が子どもたちのよさを見出していることが児童生徒にも伝わっているといえる。各校においても自校のモチベーションとなる「児童生徒のとらえ方」を見出し自覚し継続したい。

- 「将来の夢や目標」について市内中学生は全国・全県的にも高く、かつ昨年よりも上回る傾向にある。中野市主催の「夢の教室」の支援もあり、「自分の未来」に期待をもつ児童生徒がいるといえる。この期待が「乗り越えるエネルギー」となっていく支援を進めたい。

④ 自己有用感、友人関係等

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.4 (96.4)	96.3 (95.9)	98.0 (96.6)	96.3 (95.2)
15	学校に行くのは楽しいと思いますか	84.6 (86.5)	84.4 (84.8)	86.6 (86.1)	82.5 (83.8)
16	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	77.7 (78.1)	77.2 (75.8)	74.6 (79.2)	76.4 (76.2)
17	友達関係に満足していますか	92.5 (91.7)	94.8 (91.1)	95.0 (92.0)	89.6 (90.1)
18	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.4 (93.0)	94.5 (91.7)	90.3 (91.6)	89.2 (89.8)
19	分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	85.2 (81.7)	83.0 (80.7)	78.3 (77.5)	80.5 (78.6)
20	地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか	79.2 (81.3)	82.7 (83.5)	72.6 (75.3)	78.4 (76.1)
21	読書は好きですか	73.4 (69.7)		57.8 (61.6)	

- 「人の役に立つ人間になりたい」と考える中学生が昨年比を上回り、かつ全国的にも高い数値を示している。しかし、この意識が、⑳「地域や社会をよくするために何かしたい」意識に重なってくるまでには至っていない。このことは親から育てられる暮らしの中で備わった感覚といえる。より能動的かつ主体的な意識へ転換されていくことを期待したい。その一手として、小学校における地域学習(含む社会見学)、中学校における職場体験学習から社会貢献へ触手を伸ばすきっかけとしたい。
- 「学校に行くのは楽しい」と答える児童生徒が昨年比を上回っている。⑯「他者の意見を考える楽しみ」であったり、⑰「友達関係に満足」していたりすることが、学校を楽しく居場所あるものとする一因といえる。一方、他者の考えを受け入れ難いと感じたり、友達との距離感をつかめず苦しんだりする児童生徒が学校に足が向かず不登校傾向にあることも現実としてある。一人一人の多様性を受け入れていく学校の変容の在り方を探ることが急務となっている。

⑤ 授業の場面 課題解決等

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
22	5年生(中学1年～2年のとき)までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	82.5 (80.3)	86.9 (81.9)	80.3 (77.7)	83.9 (80.3)
23	5年生(中学1年～2年のとき)までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	77.7 (77.8)	85.4 (79.6)	72.3 (70.6)	82.1 (75.4)

24	5年生（中学1年～2年のとき）までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか	85.8 (83.4)	86.9 (84.3)	82.6 (79.3)	83.5 (80.9)
25	学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	82.4 (84.9)	90.6 (86.3)	84.9 (84.7)	85.9 (86.1)
26	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった見直し、次の学習につなげることができていますか	79.8 (79.4)	85.4 (80.8)	74.9 (73.4)	77.1 (77.9)
27	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか	81.6 (82.5)	86.8 (83.7)	74.9 (74.8)	78.7 (79.0)
28	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	90.4 (87.4)	91.1 (87.9)	86.3 (83.8)	86.9 (84.9)
29	授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	92.8 (91.9)	95.7 (91.6)	92.3 (91.9)	89.6 (92.3)

○②「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」ことは中野市として特に大切にしたい観点であるが、全国平均を上回っているが、昨年比では小中学生ともに下回った。

③「各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っている」こととも関連しており、小中生ともに昨年比を下回っていることから、「私はこう思う」と意思を明確にし、自ら動くことへのハードルの高さを表しているといえる。

これに対しては複線的なアプローチが望まれる。

例えば、①同一の価値観をもった集団から多様な価値観をもった集団の認知(周囲を気にせず動いてよいという肯定的な発想)②自分で考え、取り組むためのイメージ化(初めての取りかかる児童生徒が取り組みやすくするための一工夫)③主体的に考え、動くことの喜びを感受させるための手だて(自分を知り、自分のやり口を見出す喜びを知るスマールステップ)

○⑧「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、わかるまで教えてくれているか」という問いについては、昨年比、全国比とも小中学生の回答は上回っている。子どもたちの困り感に寄り添った教師の立ち位置の努力といえる。今後は、わからないところ、間違ったところを補い合える友達の関係づくりを深めたい。

#### ⑥ 総合的な学習の時間、学級活動、特別な教科 道徳

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
30	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	78.9 (82.3)	78.4 (81.3)	77.9 (79.5)	85.8 (82.2)
31	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	83.7 (83.3)	89.9 (84.2)	84.6 (84.3)	84.5 (86.3)
32	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	84.3 (80.8)	89.0 (82.5)	81.0 (77.3)	79.8 (80.6)
33	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	89.2 (88.0)	92.1 (88.2)	93.0 (91.5)	90.2 (91.7)

- ⑩総合的な学習については、各学校で題材等工夫し実践している。小学校における昨年比は、若干であるが上回る傾向にあるが、全国比では昨年同様下回っている。一方、中学校においては、昨年度全国比を0.2%上回ったが、本年度は7.9%下回った。全国平均も昨年度と本年度比は下回る傾向にある。全国比の考察は今後を待つことになるが、中学校における総合学習が課題解決的な学びとなっているか、また活動発表が目的の総合学習になっていないかを見直していくことが必要と考える。
- いずれにしても、『課題設定』『情報収集』『課題解決』『発信』等のつけるべき力を、各教科と関連づけながら総合的な学習を通して培いたい。
- ⑪「学級生活をよりよくするために互いのよさを生かして解決方法を決めているか」について、小学校の昨年比が6.2%下回った。一方中学校は0.2%上回った。小学校における数値を⑩と合わせて考察するに、客観的な学級における課題の導き出しと、そのための自らに課す課題にずれがあるのではないかと推察される。
- 今後、「私はどうするか」「やってみてどうだったか」という視点で考えていくことのできる追究の在り方と継続的な考察が必要といえる。
- ⑫「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動」についても小学校は昨年比を下回った。一方中学校においては上回っている。⑩～⑫の問題とも関連付けて考えるに、小学校は自分に落とし込んでいく学びが十分でなかったり、「確かにそうしている」と個々の児童が認識(納得)するに至っていないかであったりしているのではないかと推察される。自分の言動がどういう意味をもつのか、自己認識できるようにするためにも、学校生活、家庭生活及び地域との生活を通して、道徳的な価値を起点に、道徳的実践力を身につけられるよう努めたい。

⑧ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等 (国語)

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
34	国語の勉強は好きですか	57.7 (58.3)	61.9 (62.0)	49.9 (57.9)	67.0 (64.3)
35	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.9 (82.8)	87.5 (86.3)	82.0 (77.0)	87.2 (82.7)
36	(小) 国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか (中) 国語の授業で文章を読み、その文章の構成や展開にどのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	78.9 (79.1)	80.2 (78.3)	74.6 (74.0)	79.5 (78.7)
37	(小) 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか (中) 国語の授業で、文章を書いたあとに、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか	81.8 (81.8)	85.4 (83.2)	71.5 (73.6)	74.4 (76.7)

○⑭⑮「好きか」「内容はよく分かるか」の項目は昨年に引き続いての質問である。昨年比で小学校は4.2%中学校は17.1%下回っている。全国比も下回る傾向を示しているが、本市はその下回り幅が大きいことから国語の授業に対する興味や理解に課題がある。

○⑯小学校では「類似点相違点を意識して情報整理ができていますか」、中学校では「文章構

成や展開に効果があるのかについて、根拠を明確にして考えているか」という問いとなっている。

この点について、小中学校とも昨年比より下回っているが、本年度の全国比では、ほぼ同じ数値といえる。このことから、「文章を読み解く」「文章の構成を理解し、根拠を読み解く力」は定着しつつあると判断できる。

- ⑳ 小学校では「自分の考えが伝わるように目的に応じて文を要約して記述したり、詳細に記述する力」を問うており、中学校では「文を書いたあと、読み手の立場に立って読み直し、文を整えることができるか」という問いになっている。この点について、小中学校とも昨年比を若干下回っているが、全国比ではほぼ同数値となっている。このことから、「文章の構成(語句の選定、段落の長さ、語順 等)を考えて、作文する力が全国平均であるといえる。今後、さらに定着、向上を図るために、作文すること、文章構成を意識しながら読書することなど、日常的に活字にふれていく機会を増やしたい。

#### ⑨ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等算数(数学)

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
38	算数(数学)の勉強は好きですか	61.1 (57.9)	65.9 (61.0)	52.8 (53.8)	62.6 (67.2)
39	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか	79.2 (78.3)	85.9 (82.1)	79.6 (70.3)	77.1 (75.7)
40	算数(数学)の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	87.6 (82.3)	88.7 (83.3)	76.6 (76.2)	78.8 (78.1)
41	(小)小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか (中)文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることを理解することができますか	79.8 (80.6)		68.9 (67.1)	

- ㉑㉒「好きか、内容はよく分かるか」の質問について(そう思う・どちらかというと思う)の割合が小学校では昨年比より4.8%下回っている。中学校においては、好きかという問いには「そうでない」とする回答が9.8%であったのに対し、授業の内容が理解できるかという問いについては、昨年比2.5%上回り、全国比を9.3%上回る結果となった。

- ㉓「あきらめずにいろいろな方法で問題を解いているか」という問いに対し、小中学校ともに昨年比及び全国比を若干下回っている。一昨年度の7%下回った結果と比べると、「あきらめずに考え続けている児童生徒が増加した」といえる。今後も多面的、重層的な思考力向上を求めていきたい。

- ㉔知識理解を問う課題に対し、小中学校ともに全国比とほぼ同数値か、中学校は上回る傾向にある。ただし、この数値にたよることなく、児童生徒一人一人のとらえと相対的なとらえに開きはないか、あらためて個々の実態に即して確認しておく必要がある。

#### ⑩ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科)

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
42	理科の勉強は好きですか	78 (80.1)	84.1 (85.6)	73.3 (63.8)	73.7 (68.3)
43	理科の授業の内容はよくわかりますか	90 (88.9)		82.7 (71.4)	

44	理科の授業で学習した考え方を普段の生活で活用できていますか	60.2 (63.2)		49.8 (50.7)	
45	自然の中や日常生活、理科の授業において理科に関する疑問をもったり、問題を見出したりしていますか	61.9 (68.9)		59.2 (56.5)	

○④③「理科は好きか」という問いに昨年比が中学校はほぼ同数値であったが、小学校は6%下回った。授業の内容が理解できているかという問いには、小中ともに高い数値にて全国比を上回った。理科離れを心配した年度もあったが、授業への興味関心は向上の兆しがみえる。○④④理科の授業で学んだことを普段の生活に生かしているかという問いについて、小学校では、生活環境に即した単元が多く、学習で得た知識を活用する機会が多い。一方中学校で得た学習内容は、物質の成り立ちであったり、地質や天気、天体であったりと日常から発展した単元へと展開されるため、物理的に日常のものと関連づける機会は減少する。そうした中においても中学校は全国比を上回る結果になっている。

⑪ 今回の全国学調に関わること「国語・算数（数学）」

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		R7年度	R6年度	R7年度	R6年度
46	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか ※すべての書く問題で最後まで問題を解こうと努力した割合	83.7 (81.7)	79.9 (79.1)	69.6 (65.3)	65.1 (72.0)
47	解答時間は十分でしたか（国語） ※ちょうどよかった及び時間が余ったと答えた割合	77.2 (73.9)	69.3 (68.4)	76.4 (67.8)	84.4 (74.5)
48	(小) 今回の算数の問題では言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか (中) 今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※すべての書く問題で最後まで問題を解こうと努力した割合	73.5 (74.5)	82.2 (78.7)	58.7 (54.9)	39.1 (50.0)
49	解答時間は十分でしたか（算数・数学） ※ちょうどよかった及び時間が余ったと答えた割合	81.7 (80.4)	85.5 (84.2)	76.2 (73.2)	84.4 (74.7)

○④⑥国語の問題を最後まで解こうとしているかの問いに、小中学校ともに昨年比を上回った。また、④⑦国語の解答時間について、小学校は解答時間に余裕はあったが、中学校では8%下回っていることから、出題問題に難解な箇所があったことが、④⑥中学校の回答率からも推測できる。

○④⑧算数・数学の問題を最後まで解こうとしているかの問いに、中学校は昨年比19.6%上回り、全国比でも上回る結果となった。一方、小学校においては、昨年比を8.7%下回っており、全国比でも、下回る結果となった。④⑨の解答時間が十分であったかの問いに対して全国比より上回っているものの、昨年より3.8%下回っていることから、出題問題に難解な箇所があったことが推測される。

○上記取組に対する回答から、児童生徒に問題に対する向きあい方をあらためて指導したい。具体的には、ひとつのやり方で解けない場合は、視点を変えて考えること、推測する力を養うこと、既習内容を関連付けて解決策を探る力を身に着けること等がある。

3 令和7年度全国学力状況調査を受けて、取り組んでいく方針

(1)中野市全小中学校で進めている「学び合い」による授業改善をさらに進めていく。

令和6年度から中野市内全小中学校において、全体講師を招聘し、自主公開授業を行い、「学びあい」を取り入れた授業改善を進めている。

①【令和7年度各校が学び合い授業改善のために招聘している全体講師】

中野小学校	成城大学 文芸学部教授兼成城学園教育研究所長	岩田 一正
日野小学校	成城大学 文芸学部教授兼成城学園教育研究所長	岩田 一正
延徳小学校	成城大学 文芸学部教授兼成城学園教育研究所長	岩田 一正
平野小学校	東京大学名誉教授	佐藤 学
高丘小学校	三重大学教育学部教授兼同教職実践高度化専攻教授	岡野 昇
高社小学校	信州大学教育学部言語教育講師	大井 和彦
	信州大学教育学部特別支援教育講師	楠見 友輔
豊田小学校	一般社団法人麻布教育ラボ所長	村瀬 公胤
南宮中学校	成城大学 文芸学部教授兼成城学園教育研究所長	岩田 一正
中野平中学校	東京大学名誉教授	佐藤 学
高社中学校	信州大学教育学部言語教育講師	大井 和彦
	信州大学教育学部特別支援教育講師	楠見 友輔
豊田中学校	一般社団法人麻布教育ラボ所長	村瀬 公胤

【補足】

※中野市教育委員会では、上記公開授業及び自校研修を支援するとともに、他校職員にも積極的に参観を呼びかけ、研修を積んでいる。

※「学び合い」を取り入れた授業改善とは

- ・教師の画一的、説明的な「子ども不在」の一斉授業から、児童生徒が自ら問いを抱き、互いの考えを聴き合い、深めていく「学びのある授業」への転回
- ・子どもが前のめりになって学ぶ授業づくり(子どもたちが受け身的な授業に留まることなく、思考過程を互いに聴き合い学びあうことで、自ら学んでいく授業)

②令和7年度全国学力調査を受けた授業改善の推進

学校質問(学校職員による回答)に次の結果がある。( )内数値は全国

番号	質問事項	中野市の小学生		中野市の中学生	
		中野市	長野県	中野市	長野県
50	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか(週1回以上～月数回の回答を合算)	85.7	82.9 (79.1)	75.0	74.3 (64.9)
51	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	100	90.1 (88.5)	75.0	86.3 (78)
52	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100	95.1 (97.1)	100	96.7 (96.0)
53	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100	97.1 (98.6)	100	96.2 (95.3)

○教師が抱えている授業及び学級に対する問題について、中野市内の小中学校においては、高い比率で週1回以上月数回職員間、保護者との相談を行っている。このことは、小学校という詳細な連携をとる学校種の特性をみても高い水準にあるといえる。

また、52.53の回答からも授業改善を意識した研修を行っている。では、このことが児童

生徒に実感として受け取られているかということ、課題は残る。

よって、全体講師からの指導が教師の実働としての学びであったり、子どもから遊離しない指導として位置づいたりしているか、自らの授業を省察をしていくことで、改善効果の期待をしたい。

(2)生活と関わらせた学習を大事にしていく。

教科書をたどる型にはまった授業でなく、子どもの発想を取り入れた柔軟な授業づくりを進めたい。子どもは興味関心を抱き、「なぜ？」を追求していく時、教師の想像を超えるエネルギーを発揮する。

(3)「読む」ことの楽しさを

読書というと、思考・判断・表現力をつけるためにという「結果のよさ」に目が向きがちであるが、より読書の魅力について語り、本にふれる楽しさをアピールしたい。

(4)ICT 機器の活用

ICT 端末が、授業中いろいろな場面で活用されている。引き続き、学力向上と関わらせ、どのような場面でどのような活用をしていけば学習効果が上がるのか情報を共有したい。

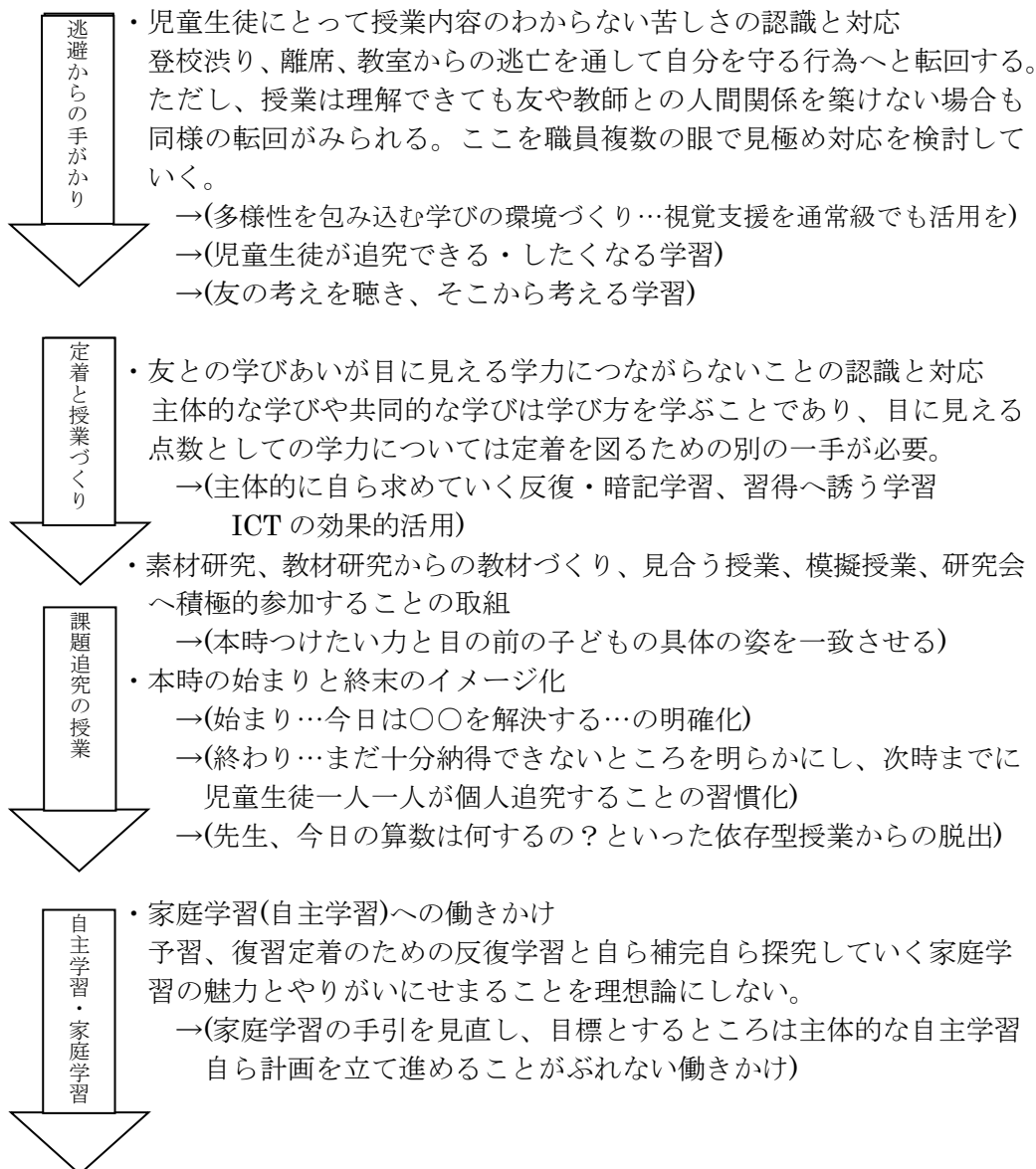
(5)「教育力向上プラン」の推進

(1)第1回中野市校長会教育力向上小委員会

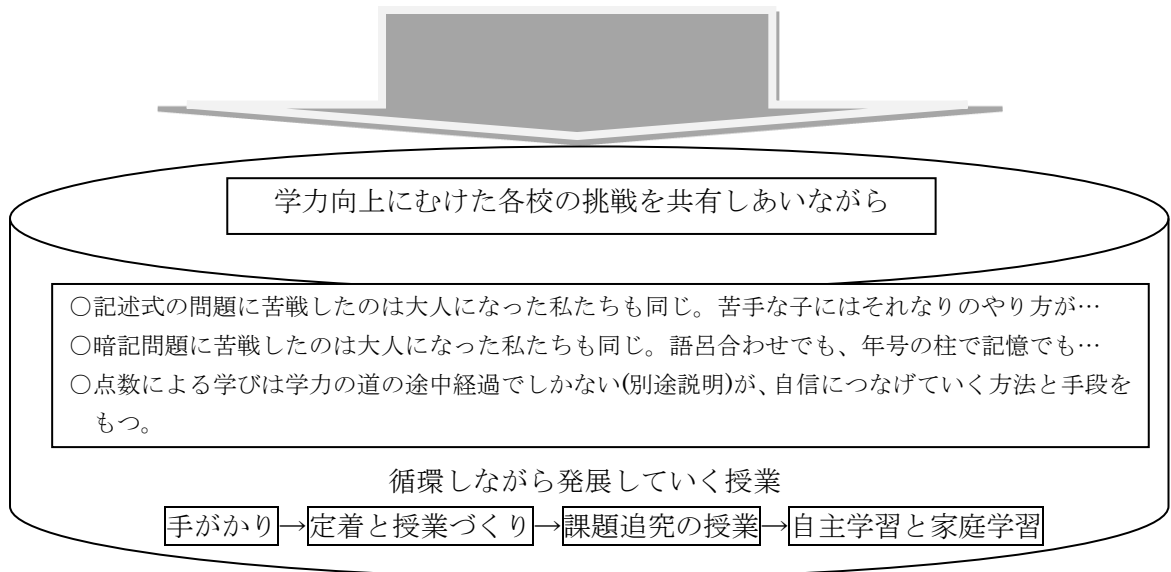
①日時 6/5(木) 10時00分～於:中野平中学校

②今年度の重点案

A 学力向上



→(中学生や高校生の先輩が家庭学習に取り組む姿をノートや映像、書き込んだ教科書、読書する姿や本の紹介等からイメージし、憧れ自分の将来を思い描く)



## B 健全育成・心の教育 (情意的学力 他)

- ・人権教育の推進とメディアコントロール、情報モラルに対する意識の向上
- ・豊かな心を育てる取組(相手意識 コミュニケーション力の醸成 あいさつや返事の励行 生活科や総合的な学習の時間での工夫、小中の交流活動等)
- ・特別支援教育(誰もが尊重される、子どもの権利・安全の保障、公正な学び)

## C キャリアパスポートの有効利用

- ・進路指導(自分のよさをどのように生かしていくか)  
なりたい自分(どのような道を選んでどのようになりたいか)の目標をもつ
- ・中学校から高校への移行(高校との共同学習等)
- ・キャリアパスポートについては進度等市内中学校でまちまちのため使いづらいという話を高校側から指摘される。キャリア教育についてどのような学習をし、どのようなキャリアパスポートのまとめ方をすることが高校側にとって有意義な学習が進められるのかを情報共有していきたい。